

| | | | |
|----------------|---|-----------------|----------------------|
| 財務会計論 A | | 教授 廣瀬 郁雄 | |
| 科目カテゴリー | 会計ファイナンスコースの 選択必修科目 経営・経済コースの専門選 択科目 教職科目 | 科目ナンバリング | 23012201 25320201 |

1. 授業のねらい・概要

財務会計は、株主、債権者、税務当局、従業員、消費者などの企業外部の利害関係者に対して、企業の状況を明らかにする外部報告会計であることから、社会的な性格を強くもっており、一定の社会的規範または法律制度的な枠組みを必要としている。そこで、本講座では、現行会計制度の枠組みを形成している企業会計原則および会社計算規則などの会計諸則を中心に解説し、その理論的な根拠を吟味することを主な目的とする。

財務会計論Aでは、主に財務会計の基礎理論、損益会計および財務諸表について平易に説明する。

2. 授業の進め方

基本的に下記のテキストを使用して、わが国の企業会計制度について平易に説明する。

また、授業内容の理解を確かなものにするため、最近の会計記事等を中心とした時事的話題を取り入れて講義する予定である。

3. 授業計画

| | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1. 会計学の研究領域（ガイダンスを含む） | 9. 収益の認識基準 |
| 2. 財務会計の基礎概念 | 10. 費用の認識基準 |
| 3. 企業会計原則の内容 | 11. 収益・費用の測定基準 |
| 4. 企業会計制度のしくみ | 12. 財務諸表の体系 |
| 5. 一般原則(1)－ 真実性, 正規の簿記, 重要性 | 13. 損益計算書と包括利益計算書 |
| 6. 一般原則(2)－ 資本と利益の区別, 明瞭性 | 14. 貸借対照表と株主資本等変動計算書 |
| 7. 一般原則(3)－ 継続性, 保守主義, 単一性 | 15. 注記と附属明細表 |
| 8. 現金主義会計と発生主義会計 | |

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回、授業の前までにシラバスの授業計画による範囲・内容について、あらかじめテキスト等を1時間以上読んでくる必要がある。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験に対してその成績結果を必要とする者に対して報告し、必要に応じて再試験を実施する。

6. 授業における学修の到達目標

簿記の一巡の手続きについて理解することを到達目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験の結果（80%）及び授業への取り組み姿勢（20%）で評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、桜井久勝著『財務会計講義（第19版）』中央経済社を使用するので、毎回授業に必ず持参すること。

また参考文献として、「会計学総論」の授業で使用した『新版会計法規集』中央経済社を参考にする。

9. 受講上の留意事項

1年次の必修科目である「会計学基礎」をはじめ、「簿記論」、「会計学総論」などの会計関連諸科目を履修していることが望ましい。